言語教育エキスポ 2017 @早稲田大学（2017/03/05 予稿集 100-101）

# 教科書をウェブ化して，CALL とスマホで利用する ブレンド型語学授業研究

## （ウェブ・プレーヤー Talkies による 4 技能対応総合英語）

田淵 龍二 [A]

**アブストラクト：** 対面一斉と個別の混合授業を振り返ると，第一期は紙版小テストや書道実技などで，現在は e ラーニングの第二期であろう。自由度と情報量は向上したが，e ラーニングで扱われる内容と語学教科書と乖離があり，連携が不自由である。これらの問題を解決した段階を第三期と名付ける。第三期では教科書自身が e ラーニングの素材となる。これを実現するには著作権とウェブ化作業の壁を超える必要がある。今回，出版社と協力して第三期対応のガイドライン策定にこぎつけた。それを授業例とともに紹介する。

**キーワード:** ブレンド型授業，e ラーニング，4 技能対応総合英語，ウェブプレーヤー

### 1　ブレンド型授業を再定義する試み

ブレンド型学習（blended learning）と言う表現が使われ始めて 20 年ほどになる。意味は文献により幅があるが，最大公約数は，学校授業での対面と個別の混合であった。これに e ラーニングを加えるものが多い。そこで本研究での定義から記述する。ブレンド型授業とは学校授業法（集団学習法）の一種で，先生・生徒・教材・環境から構成され，以下の構造を持つ。

a) 時間は授業内（集団）か授業外（個人）。
b) 運転者（主導者）は先生か生徒。
c) 教材は教科書（主教材）か副教材。
d) 素材は現物（real）か仮想（e ラーニング）。
e) ネット（ICT，さらにはスマホ）対応か。

### 2　ブレンド型授業の質を問いただす

一例を挙げる。講義は，a) 授業内，b) 教師主導（対面一斉），c) 教科書である。CALL 教室での TOEIC 演習は，a) 授業外，b) 生徒主導（個別），c) 副教材，d) 仮想である。この２種を行うとブレンド型授業となる。

こうした授業スタイルは少なくないと思われるが，本研究の核心は，教材（content）にある。

一般に教科書は，学年とともに順序だてて習得する課題を実体化したもので，習得することが期待されている。習得（記憶と活用）には，反復学習とドリルが原則である。ひるがえって先の「講義＋TOEIC 演習」を見ると，この原則から逸脱している。content（教材内容）が異なるので，反復にはならない。また形態が個別であっても学習者の学力に応じた訓練を期待できないことが多い。

### 3　ブレンド型授業の原点にもどる

第一期の紙版小テストは，生徒の達成度を測るために，教科書から語や表現を選び出して教師が自作することが多い。範囲をあらかじめ告知することで，生徒に反復学習を促す。書道実技では，跳ねや払いの課題にあった漢字を使った対面一斉指導のあと，生徒はその漢字の筆記練習を行い，教師は個別に朱を入れて回る。

ここには教材（content）の一体性・連続性があり，訓練（drill）には学力適応性・個別指導性が見られる。これら良質な部分を現代的な e ラーニ

A: ミント音声教育研究所 tabuchiryuji@nifty.ne.jp

ングに取り込む必要を強く感じる。そのための第一歩として着手したのが，e ラーニングの素材を教科書自身にすることであった。これにより，まずはブレンド型授業運営に，教材（content）の一体性・連続性を取り戻すのである。原点復帰だ。

## 4　教科書ウェブ化のためのガイドライン

教科書を電子化しウェブ公開するために解決しなければならない課題は２つあった。著作権と電子化作業である。特に近年の著作権は利益優先が過度で，文化と教育を萎縮させているとの指摘がある。そこで出版社と協議を重ね，ウェブ化のためのガイドラインにこぎつけ，新年度（2017.4）からのウェブ授業研究が実現した。ガイドラインは分量の都合で末尾参考文献に譲る。

## 5　ウェブ教科書による総合的英語授業

今回のウェブ教科書による e ラーニングの機能面での主な特徴をいくつか列挙する。

a）紙版教科書の本文を，字幕付き音映像として視聴，提示。アプリは Talkies。
b）字幕単位，段落単位での反復視聴，提示。
c）CALL だけでなく，PC やスマホでも視聴。
d）日英字幕編集，英字幕穴埋め問題作成。
e）自動採点読解速度測定付クローズテスト。
f）字幕モード，文章モード，ビデオモード。
g）シャドーイング，ルックアップモード。
h）アンケート，小テストアプリ連携。
i）多言語字幕，多言語音声対応。

これらの機能で対面一斉指導から通学時スマホでの予習復習まで，同一教材で一環指導・一環学習が実現する。教室での４技能対応総合授業の多くを e ラーニングに乗せることができる。そのイメージを図１に示した。

昨年秋の先行的授業実践では，教科書課題文を翌週の冒頭に小テストとしてクローズテストを実施したところ，自宅 PC や通学時にスマホで教科書を視聴する様子が報告された。

図１　ウェブ教科書による学習サイクル

## 6　ウェブ授業共同研究者を募集中

すぐにウェブ授業で使えるのは「Readers' Forum」と「Reading Pass」の２種７冊（南雲堂）で，その他詳しくはニュースミントの記事「ウェブ教科書による総合的英語授業 共同研究者募集」（末尾参考文献）に譲る。新年度採用予定の教科書でブレンド型ウェブ授業をやってみようと意欲のある先生は前頁下段のアドレスに問い合わせ願いたい。なお，本研究は外国語教育メディア学会（LET）関東支部研究支援プログラム「教科書添付音声付教材をウェブ化した CALL 教材による教授法研究」（期間 2 年）として行われるもので，今回の募集は，来年度（2017 年４月～）に英語授業を担当する先生が対象となる。

## 参考文献・参考資料

『教科書のウェブ化ガイドライン』，http://mintap.kir.jp/public/news/pic/bl3_gl_20170106.pdf
『ウェブ授業共同研究者の募集要項』，http://mintap.kir.jp/public/news/pic/recruitment_1.pdf
ニュースミント（2017）：『ウェブ教科書による総合的英語授業 共同研究者募集』，http://www5b.biglobe.ne.jp/~mint_hs/news/n20170116.html
Talkies： http://www.mintap.com/talkies/